

# アカガレイ



アカガレイの成長 (年齢起算日は3月1日)

年齢	オス		メス	
	全長 (cm)	体重 (g)	全長 (cm)	体重 (g)
1	10.0	5.4	7.1	1.6
2	16.6	34.2	13.1	14.2
3	20.8	78.8	18.2	45.7
4	23.7	127.0	22.6	97.5
5	25.5	167.2	26.3	166.8
6	26.7	188.2	28.5	248.8
7	27.5	220.5	32.1	338.7
8	28.0	236.3	34.4	431.5
9	28.4	246.8	36.4	523.8
10			38.0	612.8

福島水試研報13号

## 生態

- 年齢・成長：オスとメスで成長に差があり、5歳からはメスがより大きく成長します。
- 成熟・産卵：メスは5歳で36%、6歳で67%、8歳以上でほとんどの個体が成熟します。オスは満2歳から成熟すると推測されます。産卵期は2~4月です。
- 分布・移動：茨城県以北、日本海、オホーツク海に分布し、常磐海域では主に水深100~600mに分布します。季節的な深淺移動を行い、1~3月には水深100~200mの海域で多く漁獲されます。産卵期である2~4月の沿岸への冷水波及が強い年は、この時期の100m以浅への移動、分布が強まります。
- 食性：クモヒトデ類、オキアミ類、ホタルイカモドキ類、ハダカイワシ類等です。

## 漁獲の動向

平成9年以降、アカガレイをねらった深い場所での操業に伴い漁獲量は急増し、平成21、22年は500トンを超え、漁獲金額は1.5億円を超えました。震災前、県全体の漁獲量の8割以上を相馬原釜地区の沖合底びき網が占めていました。令和4年の漁獲量は5トン、漁獲金額は130万円となっています。

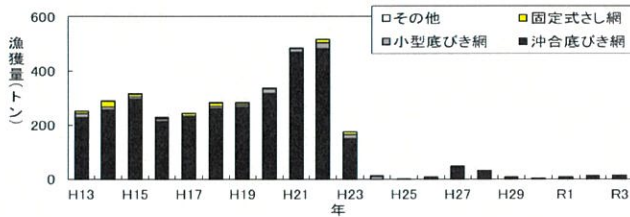


図1 アカガレイの漁業種類別漁獲量の推移

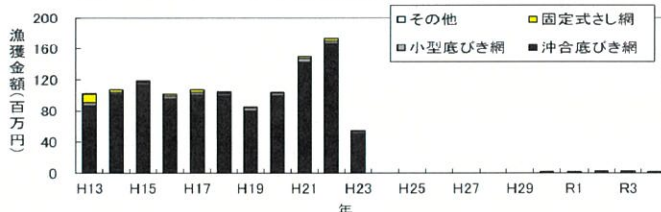


図2 アカガレイの漁業種類別漁獲金額の推移

※H25~29は相対取引のため、漁獲金額データなし

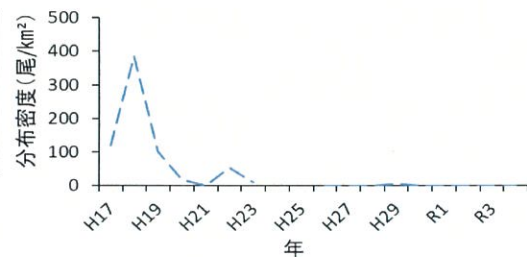


図3 調査船調査におけるアカガレイの新規加入水準

(鵜ノ尾崎沖水深200m、総曳網面積における全長20cm以下個体の漁獲重量により算出。)

## 資源の状態

○調査船調査における新規加入は、平成23年以降ほとんど見られないことから、資源の水準・動向は低位・横ばい傾向で推移しています。

資源の水準：低位  
資源の動向：横ばい

## 現在実施されている管理策

特にありません。

## 今後考えられる管理策

小型個体(未成魚)の市場価値が低いことから、小型魚を保護し、単価の高い大型の個体を漁獲することで、親魚までの生き残りを高めることが出来ると考えられます。